

にいがた旬塾

仮説思考で行こう！ 助成金を成長のチャンスに活かす3つの視点

2026年1月28日（水）

風とつばさ 

自己紹介

Self-introduction

■ シンクタンクで政策研究・コンサルティング

(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)

■ パラレルキャリアとして大学教員に

(東京工科大学・専任教員として)

■ 独立し、引き続きリサーチとコンサルティングを実施

(株式会社 風とつばさ 代表取締役)

■ 並行して、仲間と共に、コミュニティ財団を設立

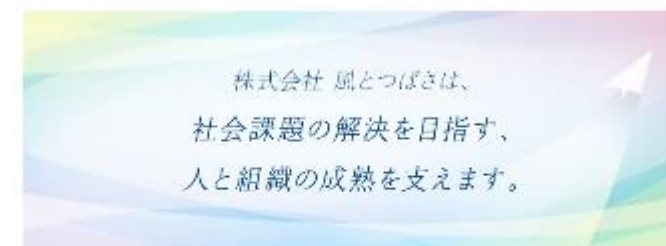
(世田谷コミュニティ財団 代表理事

/2022年6月末まで)



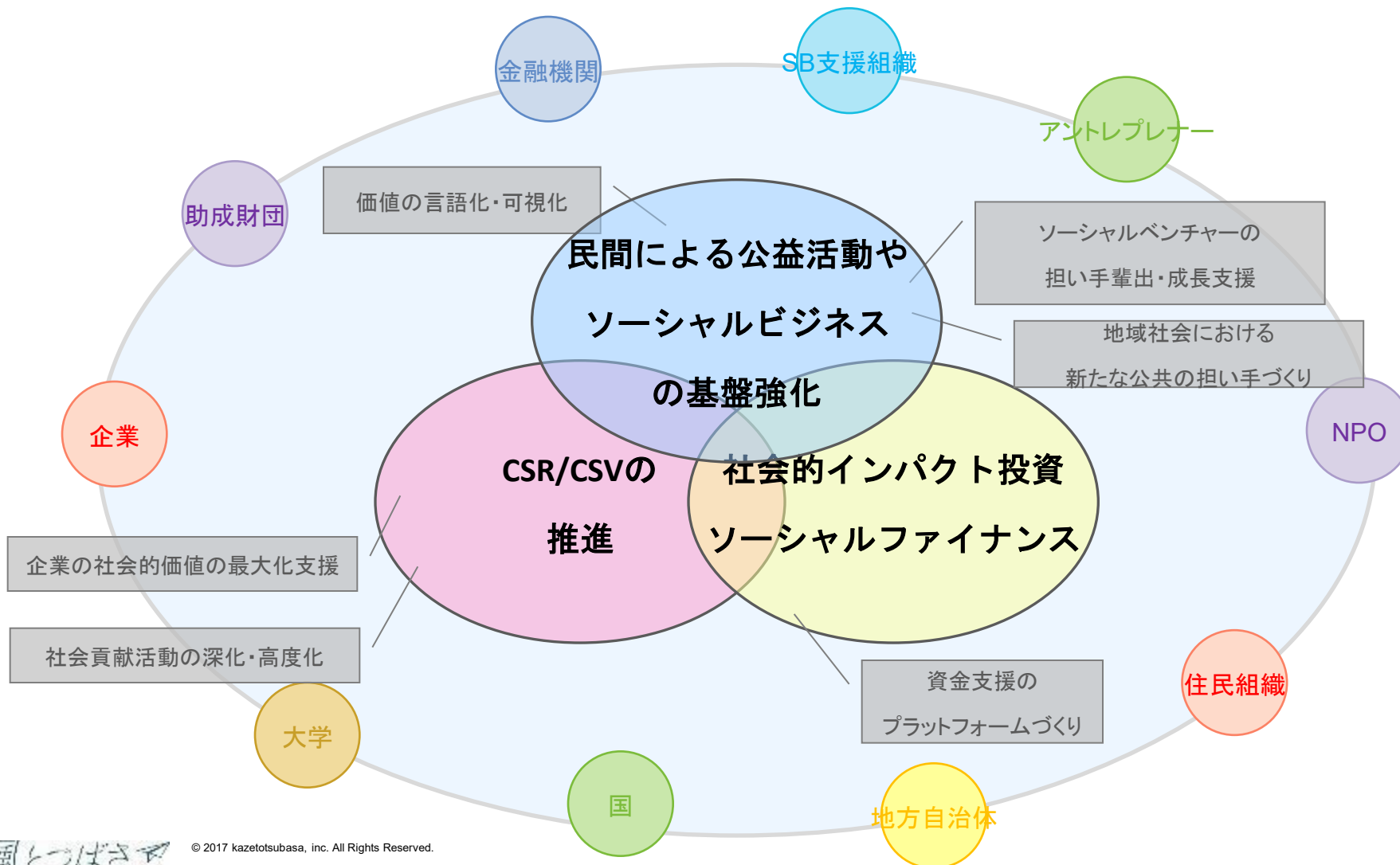
風とつばさ

TOP | について | プロフィール | 事業内容 | 実績 | 提携・協力先 | 会社概要



関心領域・専門分野

ソーシャルイノベーションの推進／ソーシャルエコノミーの創出
／社会的インパクト投資・ソーシャルファイナンス



自分がやっていること

民が担う公益の

可能性と価値を拡充する

「人」と「お金」

「上流～仲介～現場」

「調べる」～「つくる」まで

理事や評議員、社外取締役等として関わっているもの/いたもの (例)

一般財団法人 世田谷コミュニティ財団

- ✓ 設立準備会から取り組みを牽引し、創業代表へ
- ✓ 2013年からの準備期間5年、2018年の設立後5年の計10年ほど、運営の中核を担う



公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン

- ✓ 子どもの貧困や教育格差の是正に取り組む団体
- ✓ 2013年頃からアドバイスやサポートなど、現在は社外理事

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン



公益財団法人 日本非営利組織評価センター

- ✓ 非営利組織の信頼性やガバナンス向上を目指し、組織評価や認証制度を運営
- ✓ 評議員として法人運営に参画

信頼できる団体を
「評価」で応援します。



公益財団法人 パブリックリソース財団

- ✓ 寄付を通じた社会貢献活動のサポート等を行う財団
- ✓ 理事として運営に参画していた (任期满了につき退任済)



英治出版 株式会社

- ✓ ビジネスや人と組織・ソーシャルセクターに関連する書籍などを送り出す出版社
- ✓ 社外取締役として経営に参画 (2024年6月~)



民間企業へのサポート～サントリー次世代エンパワメントプログラム「君は未知数」

水と生きる **SUNTORY**

商品

知る・楽しむ

文化・スポーツ

サステナビリティ

企業情報

Global

マイページ

お問い合わせ



君は未知数

empowered by **SUNTORY**

こどもたちの可能性は未知数。その可能性を全てのこどもたちが
ひらくことができる社会を実現する。それが私たちの想いです。
こどもたちのワクワクを起点とし、一步を踏み出すきっかけを届けたい。
「好き」や「やってみたい」を見つけ、自由に表現できる社会は、
すべての生命が輝き、こどもたちが希望を持てる社会であると考えます。



FELLOW

水谷 衣里

株式会社 風とつばさ
代表取締役

三菱UFJリサーチ&コンサルティングにて、民間公益活動に関する調査研究や政策立案、企業の社会貢献活動、CSR/CSVの実現に向けたコンサルティングに従事。2017年に独立後も、引き続きソーシャルファイナンス・インパクト投資・コミュニティ投資・ベンチャーフィランソロピーといったソーシャルセクターの資金還流や、ソーシャルベンチャーの経営支援に携わる。

また財団等の支援組織へのサポートやコンサルティング、企業人材の育成や越境学習のコーディネート等を行う。

シンクタンク在籍中には、東京工科大学メディア学部にて専任教員として、ソーシャルイノベーション、ソーシャルアントレプレナーシップ等に関する教育・研究に従事した。

その他各種執筆や講演、コーディネーションを通じて、当該分野への知的貢献を続ける。

メッセージ

「子どもたちの可能性を信じる」

次世代エンパワメントプログラム「君は未知数 empowered by SUNTORY」には、そんな思いが込められていると感じます。

そして、子どもたちの「未知なる可能性」を応援する大人たちを、真正面から支え、共に歩む。そんな思いに裏打ちされたプログラムでもあると感じます。

「いいことばかりじゃない。でもこの世界は生きるに値する」

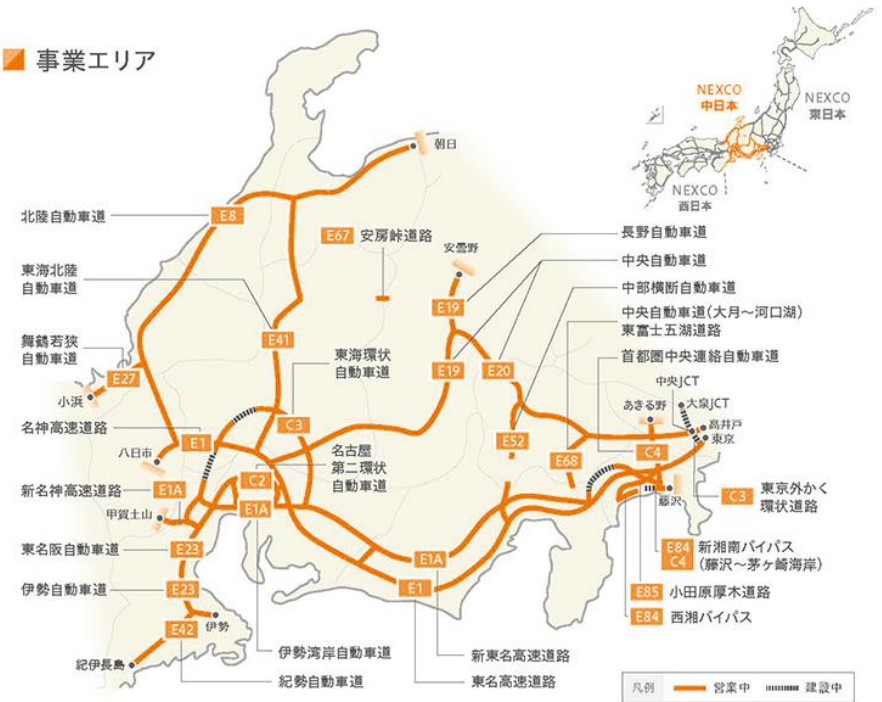
「自分も、この世界も、可能性に満ちあふれている」

そう思える子どもや若者を1人でも増やすために、私たち大人が出来ることを、プログラムに関わる全ての皆さんと共に模索したいと思います。

民間企業へのサポート ～NEXCO中日本における越境型人材育成プログラム



事業エリア



※東京外かく環状道路(大塚JCT～中央JCT)間は、国土交通省及び東日本高速道路株式会社から委託を受けて事業を実施

2023年4月現在

インパクト投資やソーシャルファイナンスに関する調査研究

IMPACT INVESTMENT REPORT 2019

インパクト投資拡大に向けた提言書

2019

キービジュアル集
2020年4月



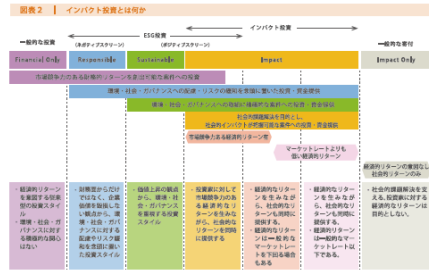
I. インパクト投資とは何か

インパクト投資とは、社会課題・環境課題での課題解決を図ると共に、経済的有利性を追求する投資行動のことです。

従来の投資は「リスク」と「リターン」という2つの軸により投資判断が下された。これに「インパクト」という3つ目の軸を取り入れた投資。かつ、事業や活動の成果として社会・環境的な変化や効果を実現し、社会的なリターンと経済的なリターンの両方を両立させることを目指した投資を、インパクト投資と称す。

インパクト投資の特徴は、社会的な課題解決を目的としていること、

用語	意味
インパクト	事業や活動の結果として生じた、社会的・環境的な変化や効果（経済、長利を問わない）
社会的インパクト評価	社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、事業や活動について価値判断を加えること
インパクト投資	社会課題・環境課題での課題解決を図ると共に、経済的な利益を追求する投資行動のこと。投資（株式・債券）、融資、リース等、金融的リターンを求める一切の金融取引をまとめて「投資」と呼ぶ。有償・無償含み、給付金等も対象とする



(図表) G4社会インパクト投資スタジアム ALLICATING FOR IMPACT (2014) 編集・複製権者保留

IMPACT INVESTMENT REPORT 2019 SUMMARY 01

III. インパクト投資のこれから



IMPACT INVESTMENT REPORT 2019 SUMMARY 06

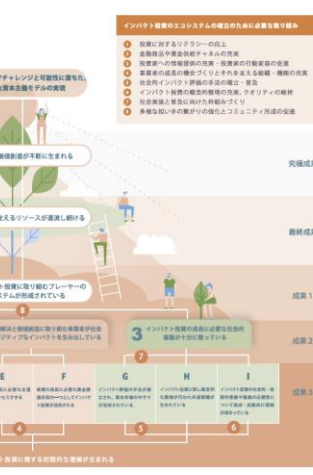


IMPACT INVESTMENT REPORT 2019 SUMMARY 07

IV. インパクト投資の拡大に向けた提言



IMPACT INVESTMENT REPORT 2019 SUMMARY 08

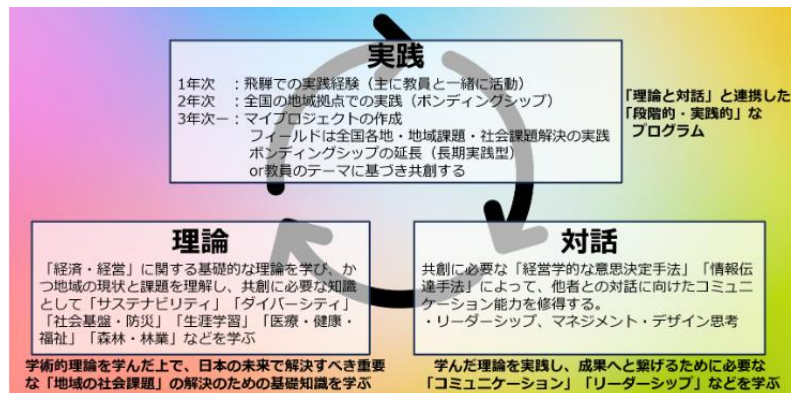
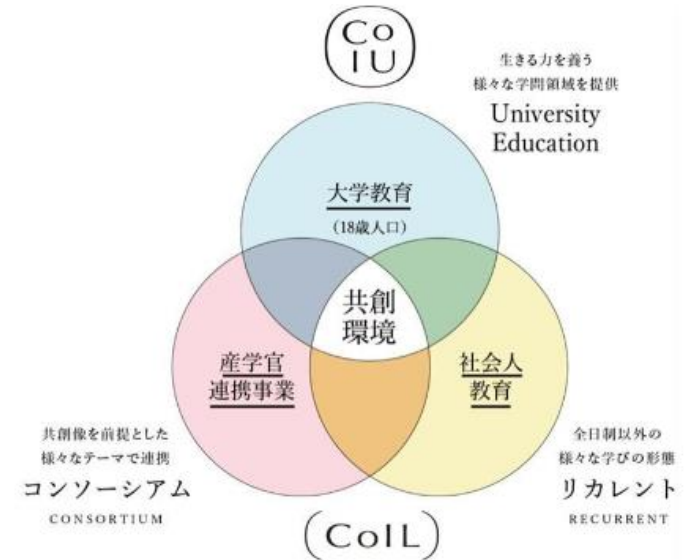


IMPACT INVESTMENT REPORT 2019 SUMMARY 09

ソーシャルセクターが社会にもたらしたインパクトや変革を言語化する



大学との関わり ～飛騨古川から始まる新設大学“Co-Innovation University”



ソーシャルデザイン論 オンラインチャリティーレクチャー



Guest

水谷衣里さん

株式会社 風とつばさ
代表取締役
世田谷コミュニティ財団 代表理事

「まちを支える生態系をつくる」



共通のアジェンダから
個や組織のつながりを
デザインし、社会への
インパクトを生み出す。



Moderator

渡辺 祐亮

株式会社 cocoroé 代表取締役
「農民イノストラ」で半農半デザイナー実践



Lecturer

田中美帆

株式会社 cocoroé
代表取締役 リーシャルデザインレクチャー

「公益性、協働性、持続性の3要素」
「ソーシャルデザインの源は、真・善・美」



ソーシャルデザイン論 オンラインチャリティーレクチャー



Guest

水谷衣里さん

株式会社 風とつばさ
代表取締役
世田谷コミュニティ財団 代表理事

「まちを支える生態形をつくる」

共通のアジェンダから
個や組織のつながりを
デザインし、社会への
インパクトを生み出す。

Lecturer

田中美帆

株式会社 COCOROE
代表取締役 リーシャルデザインレクチャー



「公益性、協働性、持続性の3要素」
「ソーシャルデザインの源は、真・善・美」



Moderator

渡辺 祐亮

株式会社 COCOROE リーシャルレクチャー
「農民イノベ」で半農半レクチャー実践



ビジョンとUniqueness

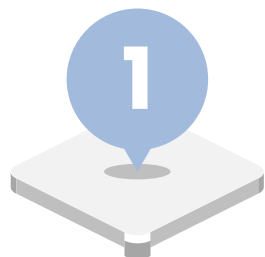


今日のテーマ

助成金を「申請するため」 ではなく「成長のため」に どう使うか？

- ✓ 市民活動を対象とする助成金は、あなたやあなたの団体の成長を助け、ひいては制度の狭間で苦しむ課題の当事者を助けるための大切なお金です。
- ✓ この講座では、そんな市民活動団体を対象とした助成を「**もらうため**」ではなく「**活かすため**」の視点から、申請前に知っておきたいポイントをお伝えします。

本日本話すること（本セミナーのポイント）



「通すための申請書」ではなく
「プロセスを通じて育つ申請書」をつくろう



仮説を中心に組み立てよう

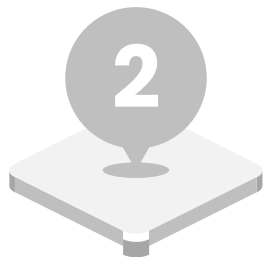


自らを省みる機会をつくろう

本日お話すること（本セミナーのポイント）



「通すための申請書」ではなく
「プロセスを通じて育つ申請書」をつくろう



仮説を中心に組み立てよう



自らを省みる機会をつくろう

そもそものお話

助成金って？

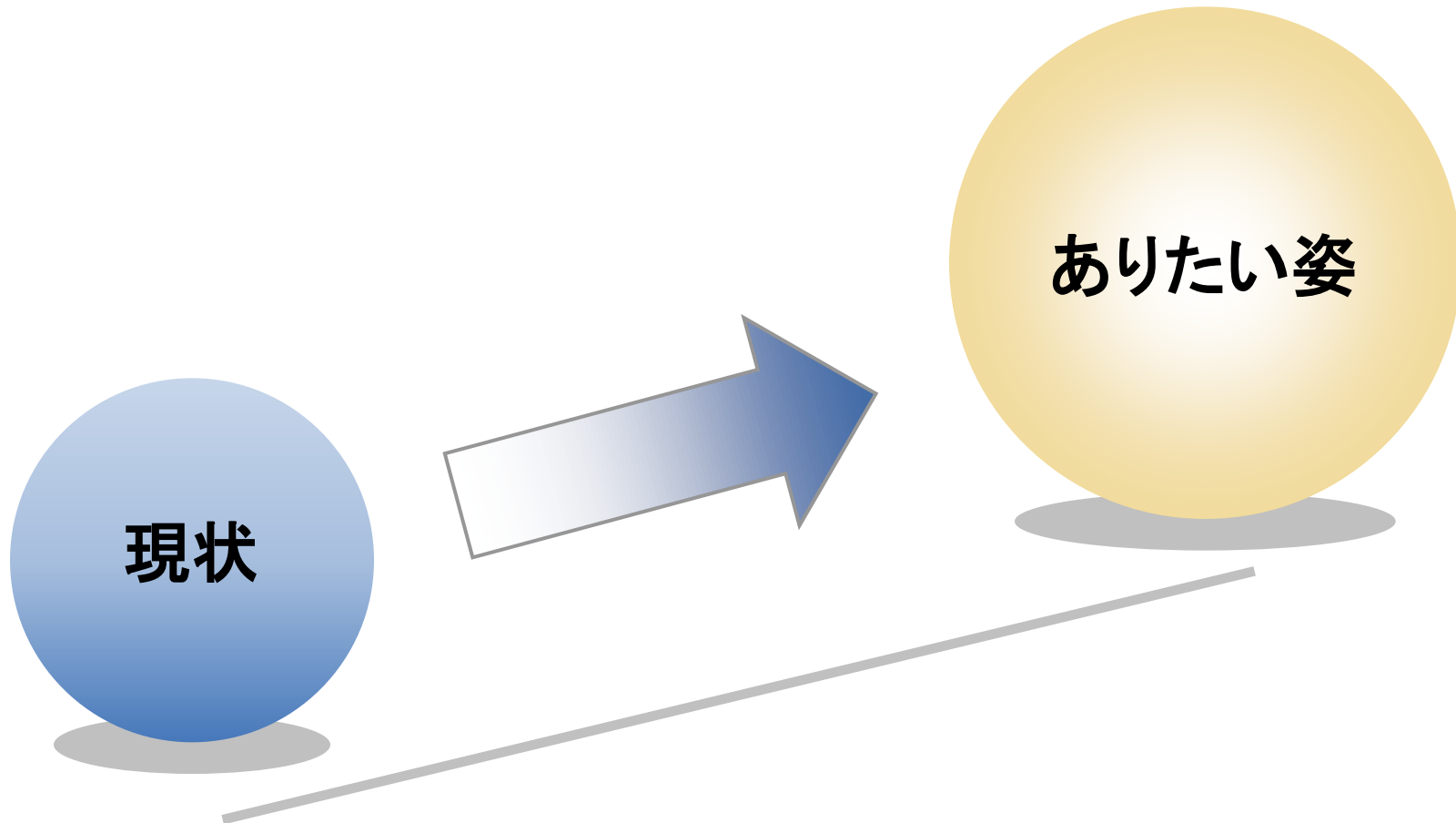
そもそものお話

助成金 II 成長を助けるお金

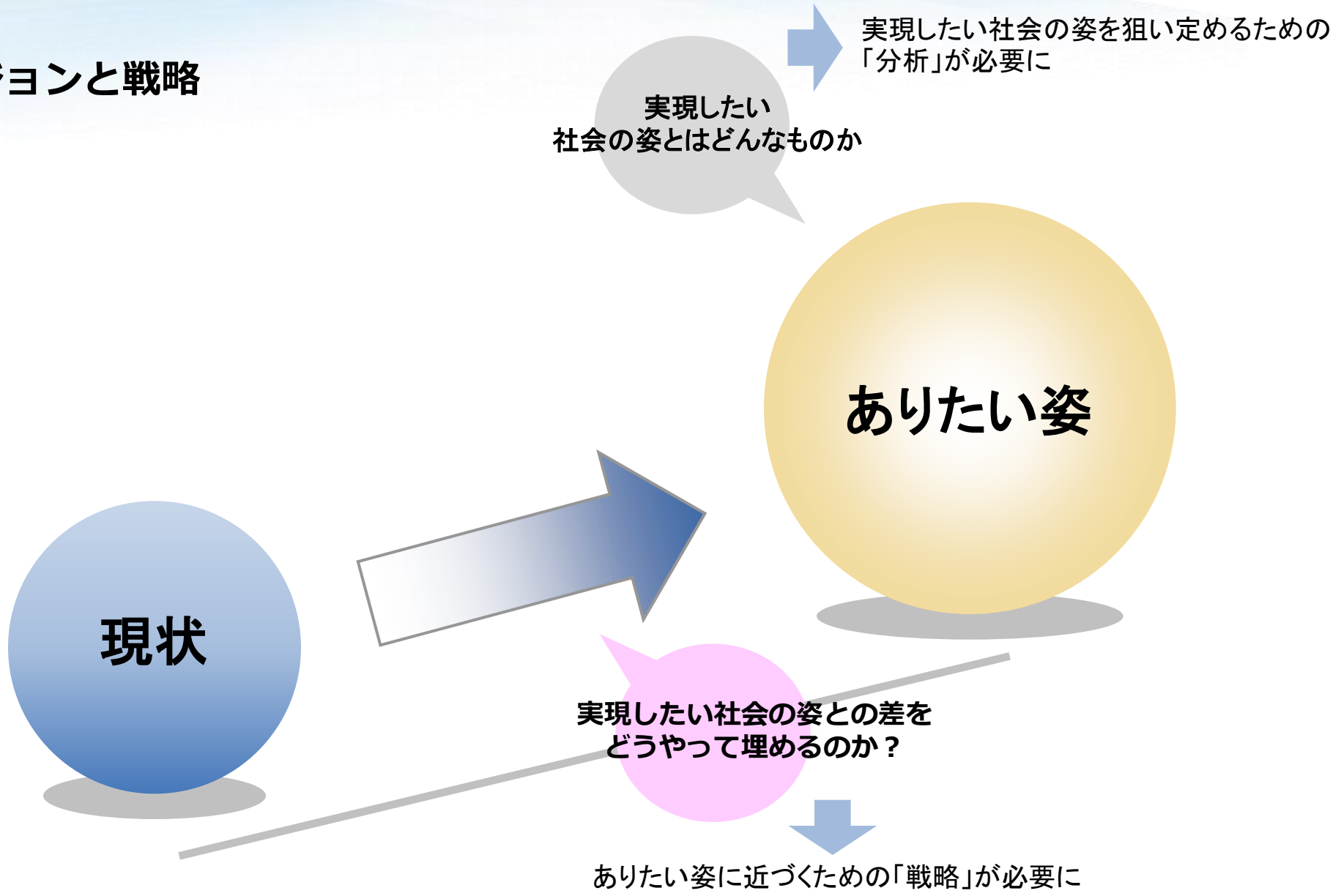
助成金 II 成長を助けるお金

大切なことは、
「どう成長したいのか」という
意思でありビジョン

ビジョンと戦略



ビジョンと戦略



「意思」や「ビジョン」を描く時に大切なこと

作成プロセスを
大切にすること

NPO法人ノーベル 「2030年へのビジョンブック」

両立を、
つくりなおそう。



認定NPO法人ノーベル

母親がしんどくなる ばかりの両立を無くし つくりなおすノーベルに変わります。

ノーベルを立ち上げて10年がたちました。この10年で、自休の増進や、自休からの
就業は制度として認められ、昇給制度や、育児休業制度・マタハラ問題なども
取り上げられるようになり、行政も企業も変わらざるを得ない時代になりました。
働く女性はさらに増え、育児をしながらの共働き家庭は、全体の2/3にまで増えて
います。

しかし、子育てが母親だけの役割や責任に委ねられている状況は一向に変わりません。
それはノーベルの育児保育現場に働く保育スタッフの声や、母親たちの悩みに
関係がります。

就職しても時間に追われ、子どもを迎えに走り、仕づく間もなく翌日に立つのは、
たいへん母親です。両立がしやすくなったお母さんばかりではありません。「先は大変な
働き、子育てと両立をする」という土壌の整備は間もなく、そのうえで
働く母親が暮らしやすくなるのです。

私自身、2年前に第一子の出生を経験しました。妊娠中や出生後の育児期間中は
母親である自分の力が思うように働かず、仕事をこなすにも大幅に時間がか
かり、私の場合は千のせいで事業が停滞するという経営者としての能力の弱さを
思い知らされました。真っ二つの宿命である「けんしょう式」になり、パソコンを打つ
だけでも手音が痛むなか、母乳責めをつくり、洗濯をして、夜に再びパソコンに
向かう。夢中でこなさなかった飲み会で物事が決まってしまう現実を想像すると、第二子が欲しいても、
躊躇しかありませんでした。

それでも母の母親たちは、早くと決めた以上は迷惑もかけずに頑張らなければと、
責任感や能力や忍耐で、固なる成り立っています。たとえ職場で両立への環境が
得られなくても必死でがんばり、もっと声を上げていい理由があるはずなのに、
それもしつらいつらいつらなもので、

ノーベルは、両立をつくりなおします。関係ごとをつくりなおしていきます。
両立時代に入った子育てでは、母親だけでは無理だということを社会の前提にしな
ければいけない。男性も女性も、仕事は同じようにする社会になれたのだから、
育児・家事も男女で行う社会にすべきと変えていける。働く人が多様化するなかで、
働き方だけが「弱から強くなるまで」のままになっている状況を認めていかなくては
いけない。そして働く多くの母親には、仕事に責任を持っていいことも、できない
ことは認っていいことも、頑張るべき人は家族の多にもいることを知って、ひとりで
抱え込まない両立に、ぜひ踏み出してほしい。

役員だけでなく、家族も、船の先のチームや組織も、そして地域も、行政も、何人も。
子育てしながら働く母親と関わりのあるすべての人が、本音を言って、うある状況を
共有して、母親がひとりで抱え込みがちな育児の子育て社会に、理解と、できることを

示していく。それが両立に言われる「社会全体で子育てをする」ということでは
ないでしょうか。その実現に必要なことを、目指していくために、私たちノーベルも
変わります。

株式会社ノーベル 代表取締役 **高野**

だからノーベルは、育児保育だけで両立おかさんを応援するのは もう、おしまい。

新しいノーベルは、企業、地域、行政、関係にも目を向けて、
お母さんたちの声や悩みだけでなく、関係にも目を向けて、
ひとつひとつ解決してきて、進んでいこうと決めています。

高野は、「子どもを産んでも向かい合える社会」。

一緒に、さあ、向かいましょう！



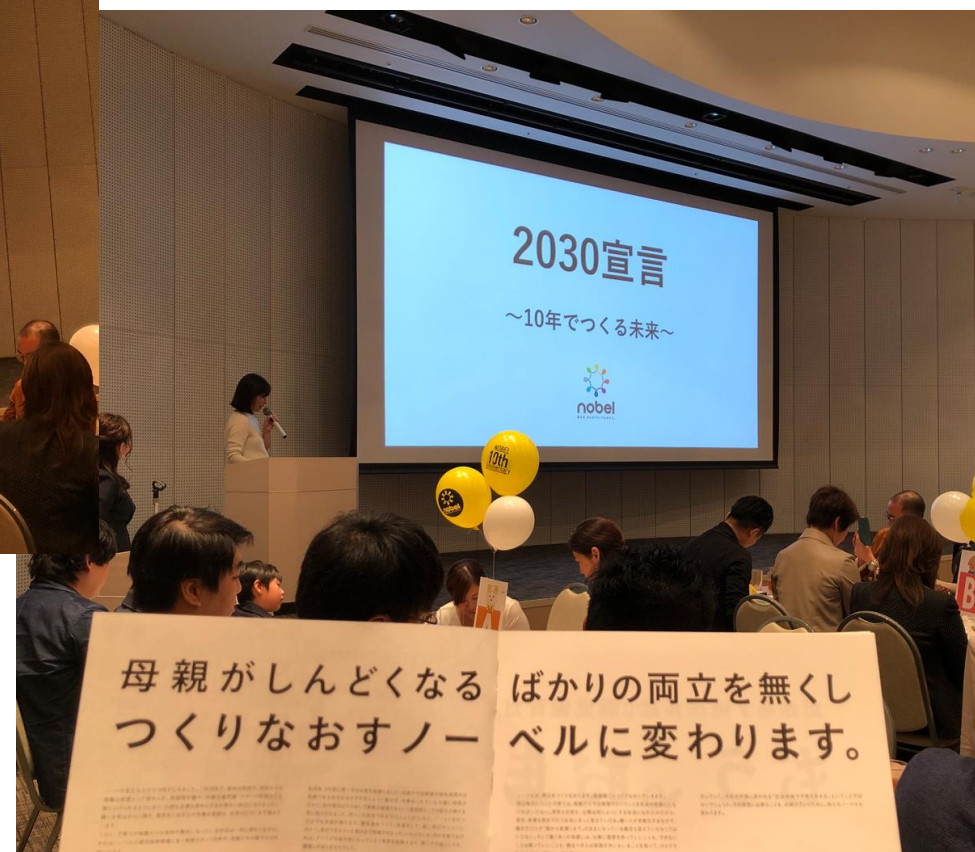
10周年イベントでのお披露目を目指し、2030VISIONブックを作成



法人内での繰り返し議論



10周年イベントで完成したビジョンブックをお披露目



さまざまな組織・団体とのコミュニケーションや作成プロセスを経て



Howはあるが、絶対解はない

- この10年で、「課題の共有」「未来の見立て」に関する実践例は圧倒的に増加。合わせて“How”も可視化
- 取組みには「絶対解」はなく、それぞれが、それぞれの考えに沿って選び取る必要



ルールはない、プリンシプルが大切

- 「何が正解」ということはないため、むしろ「何を大事にするか」という方針や価値観が大切に
- 伝えたいことは何か、誰に伝えたいのか考えることがより大切に



作成プロセスはチームアップのプロセス

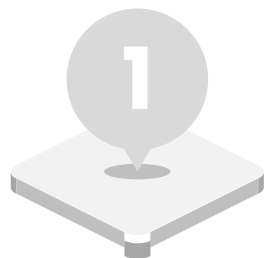
- どの手法を採るのかにもよるが、「課題の共有」「未来の見立て」の言語化・可視化にはそれなりの時間と労力、コストがかかる
- 一方で、そのプロセスこそチームアップの時間である。このことを軽んじない方がよい



ラポールがなければうまくいかない

- アウトプットの質は、思考の質であり、スキルの結果である
- 同時に法人内・組織内のコミュニケーション、あるいは支援者とのコミュニケーションがうまく取れなければ成功しない（あるいはアウトプットだけでできても、その先につながらない=コストが回収できない）

本日も話すること（本セミナーのポイント）



「通すための申請書」ではなく
「プロセスを通じて育つ申請書」をつくろう

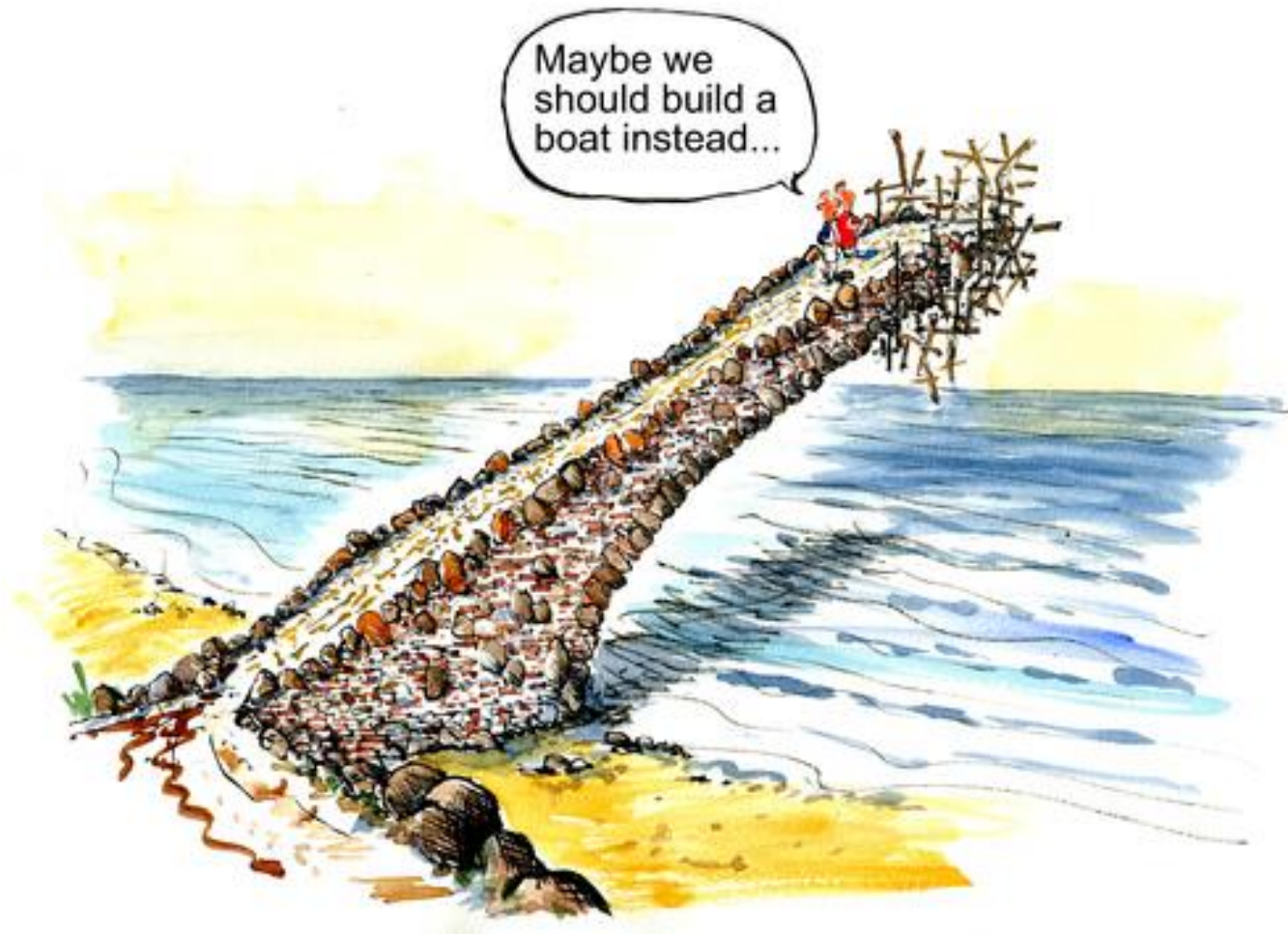


仮説を中心に組み立てよう



自らを省みる機会をつくろう

何をどう実践するのか？



何をどう実践するか？

**試行錯誤は
悪いことではない
(が、やっぱりロスも大きい)**

何をどう実践するか？

**「迷子」や「迷走」
を防ぐために**

何をどう実践するか？

「仮説」を持つ

よい仮説をどうつくるのか？ . . . その軸となるのは

「調べる」
「考える」

仮説とはなにか？

仮説とは何か

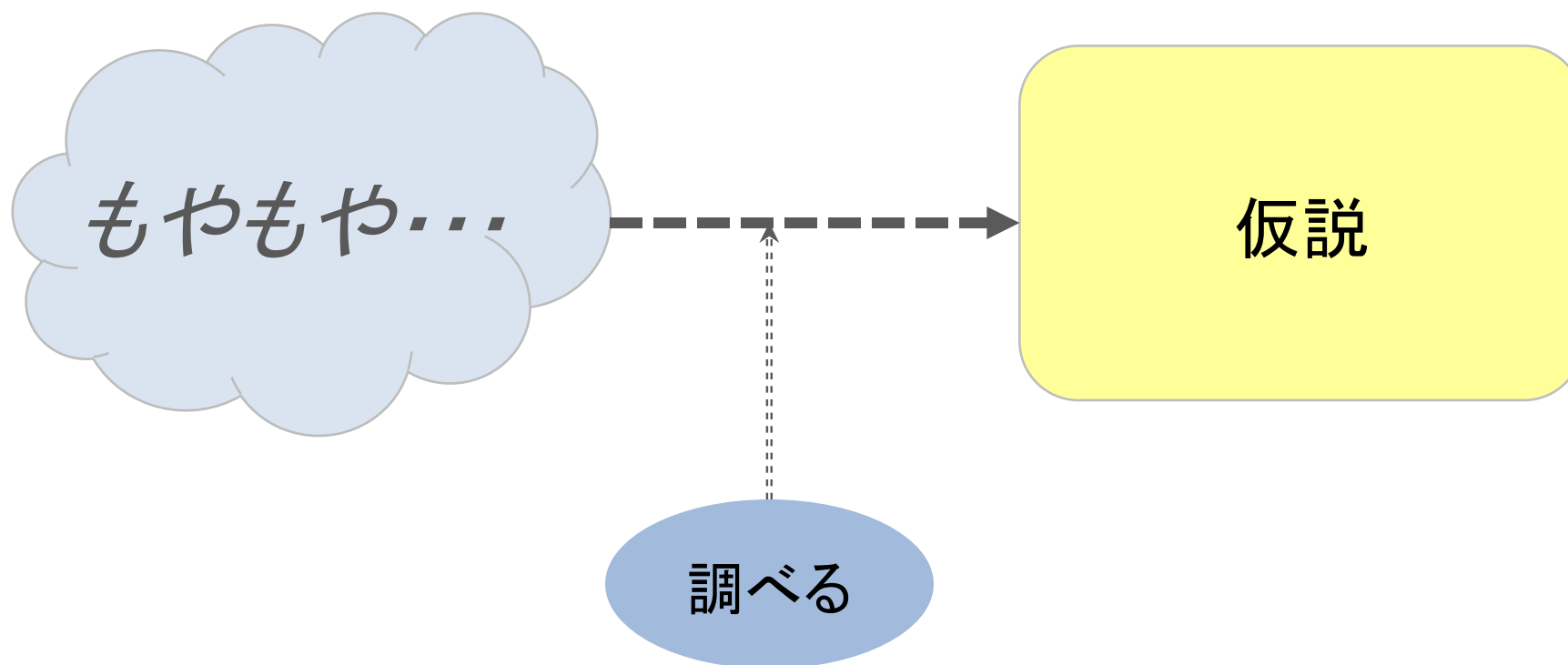
- 仮説とは

- 仮説(かせつ、英: hypothesis)とは、真偽はともかくとして、何らかの現象や法則性を説明するのに役立つ命題のこと。

- 仮説思考とは

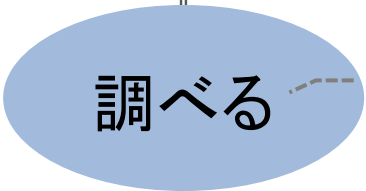
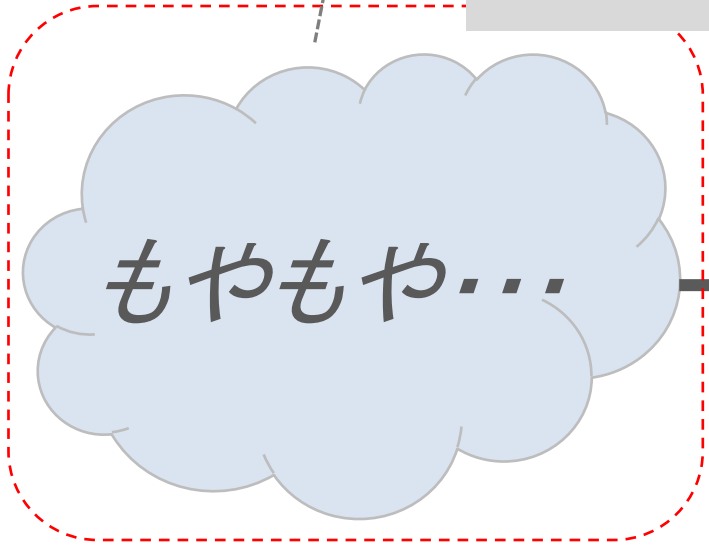
- 手元にある限られた情報や知識をもとに仮説を立てながら、解決策を考えて実行し、必要に応じて検証する、そのための考え方

「仮説」と「調べる」

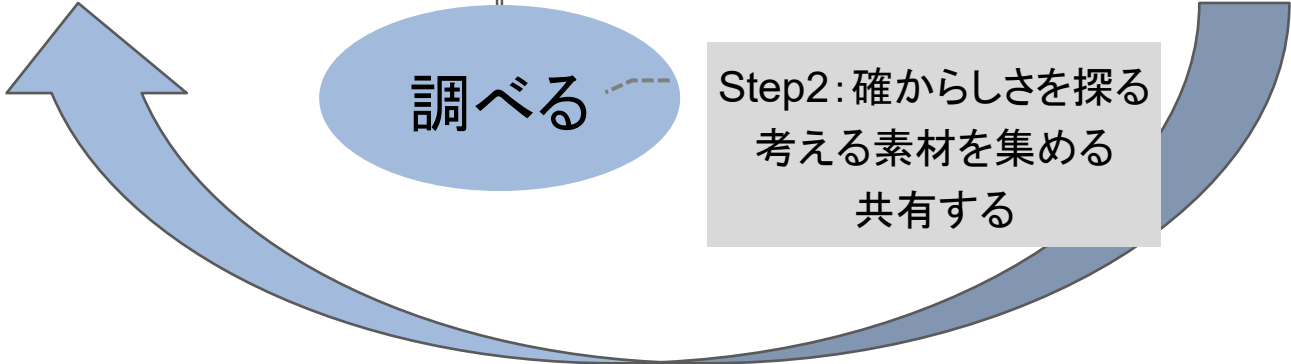


「仮説」と「調べる」

Step1:ここを言葉にする
翻訳する、言語化する(してもらう)
メンバーと共有する



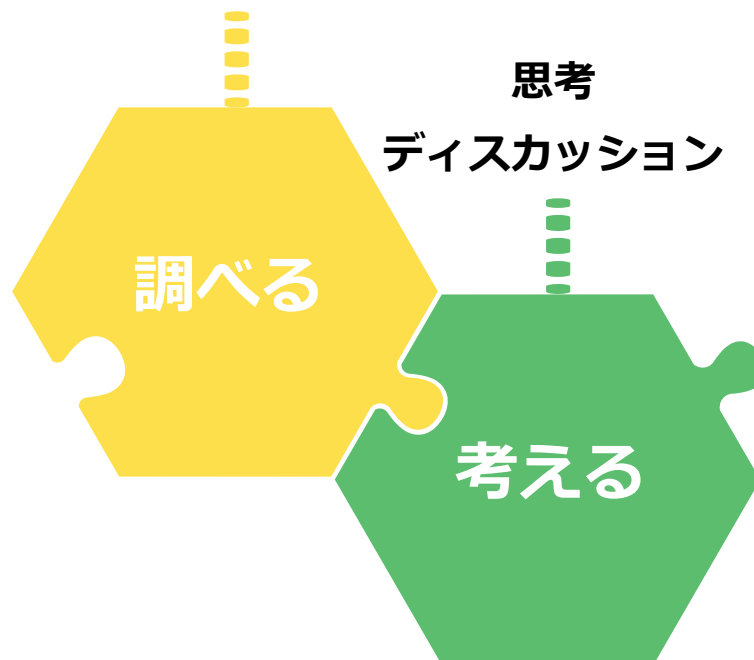
Step2:確からしさを探る
考える素材を集める
共有する



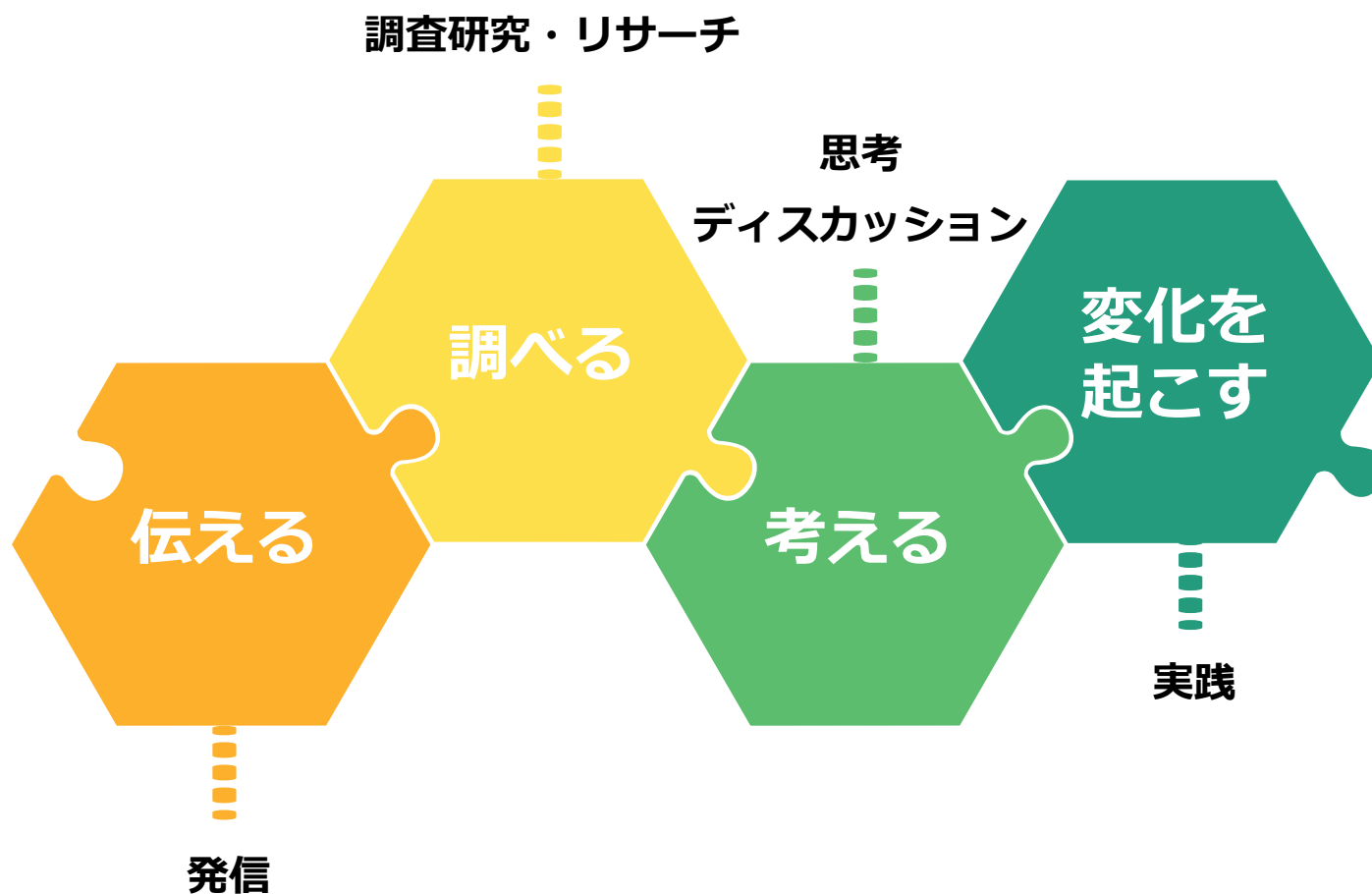
どうやって仮説をつくるのか？

課題解決に向けたアクションに必要なこと

調査研究・リサーチ



課題解決に向けたアクションに必要なこと



調査とは何か？

民間公益活動団体にとっての“調査”

「実践を行う」ために、“調査”はどう役に立つのか
「PJを具体化」するために、“調査”をどう生かすのか

課題を可視化する手段
としての調査

調査の仮説



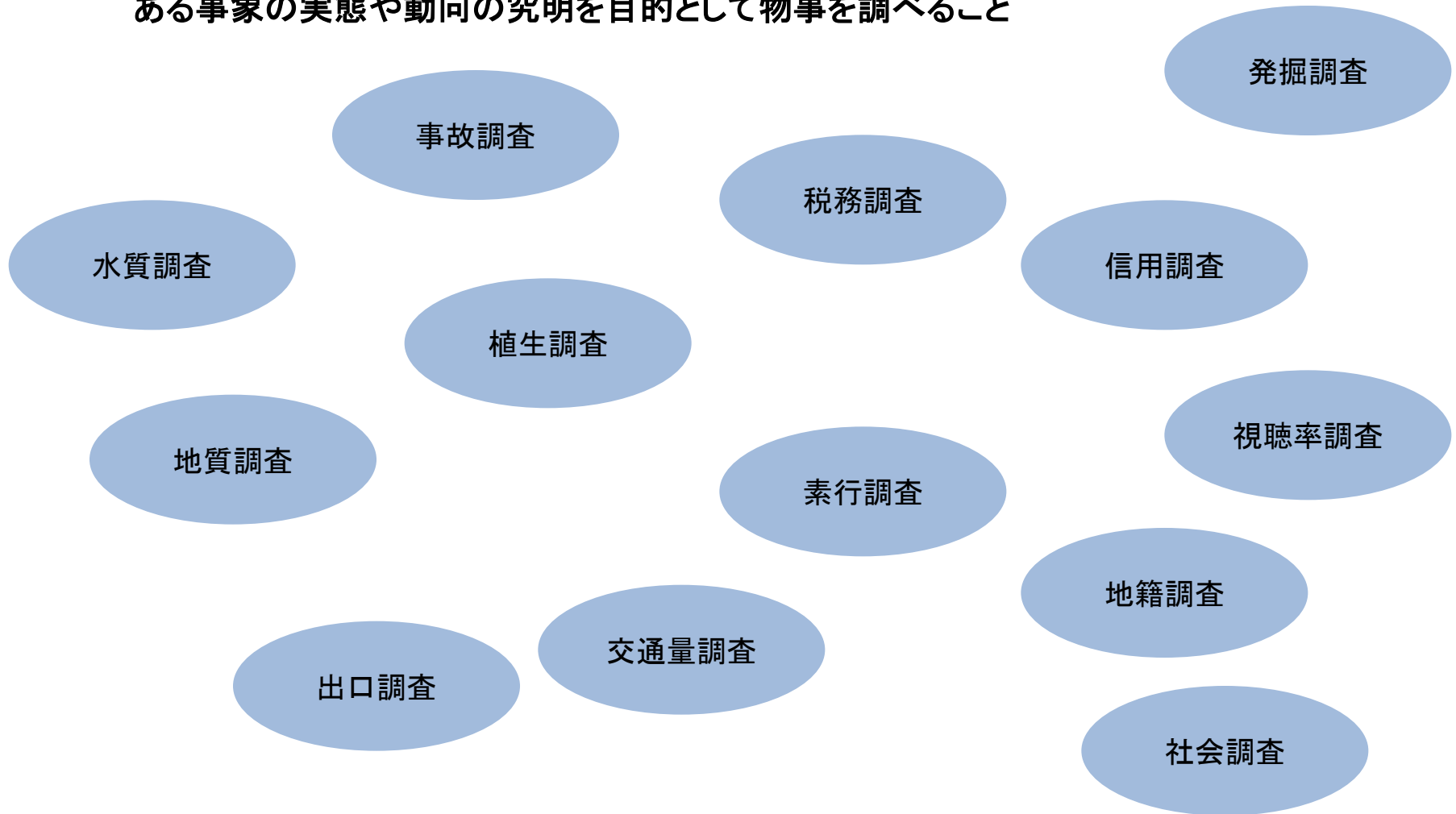
人を巻き込む手段
としての調査

アクションの仮説

「調査」とは？

「調査」

ある事象の実態や動向の究明を目的として物事を調べること



「調査」とは？

「調査」

ある事象の実態や動向の究明を目的として物事を調べること



「社会調査」とは？

社会調査

- ✓ 人々の意識や行動などの実態をとらえるための調査活動
- ✓ 社会が抱える課題の解決を最終的な目的として、その社会の実態を包括的・多面的に把握する調査活動

社会的な問題意識に基づいてデータを収集し、
収集したデータを使って、社会について考え、
その結果を公表する一連の過程

(出所)「新・社会調査へのアプローチ 論理と方法」大谷信介ほか ミネルヴァ書房 2013

社会調査が出来ること

不特定多数の人々の営みについて知ること



知らないことは知っている当事者から教えてもらう

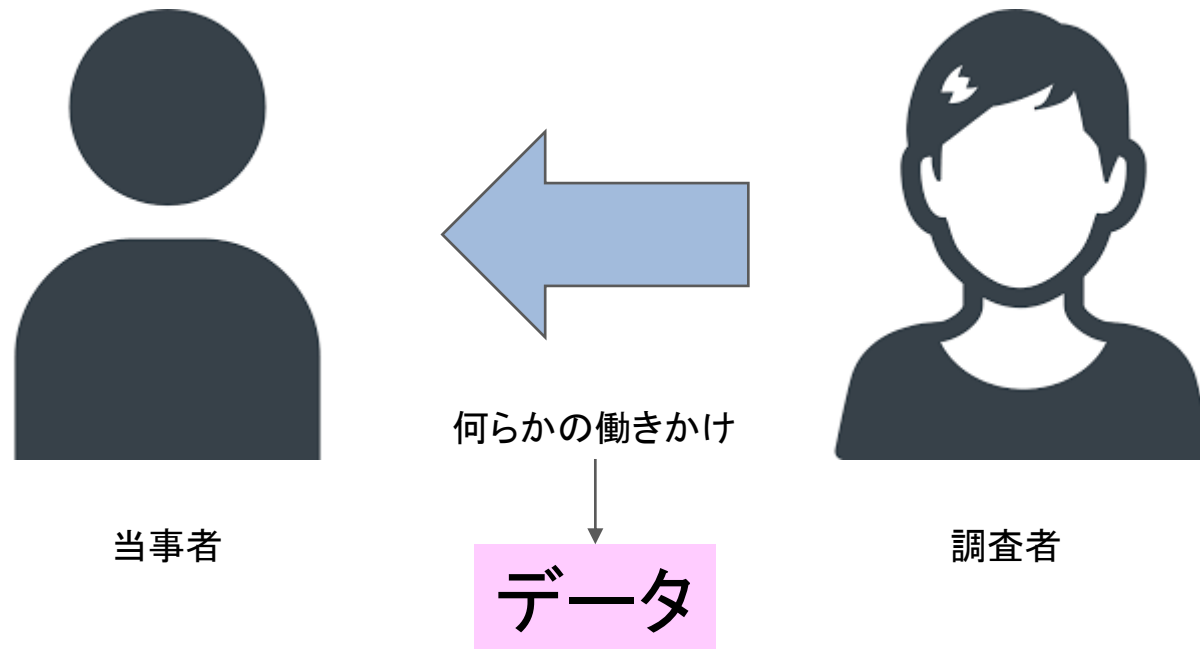
文献調査

聞き取り調査

サーベイ調査

どれもおなじ構造を持っている

基本原則



*いかによく働きかけるか？

社会調査の原理

- 「知らないから教えて貰う」
- 何らかの働きかけからデータを得る
- 文献調査・聞き取り調査・サーベイ調査の3種が基本
- いかにより良く働きかけるか (データ収集の質を高める)

社会調査が出来ること

文献調査

- 量的な拡張可能性
- 批判可能性
- ✓ 存在しないものは分析できない
- ✓ 客観性の限界(立ち位置)

聞き取り調査

- 柔軟性
- 思考機会としての意味
- 情報量の豊富さ
- ✓ 量的拡張性の低さ
- ✓ 客観性の低さ

サーベイ調査

- 全体に対する代表制
- ✓ 費用と人員
- ✓ 情報量の少なさ
- ✓ 柔軟性の低さ

優劣はない
3者を組み合わせながら、現実的な方法を考えること

(参考)
「実践社会調査入門」
玉野和志 世界思想社

ジャンルから探す

法律・政治

経済

社会

メディア・マスコミ

ジェンダー

人類学・民俗学

教育

心理

哲学・思想・宗教

歴史

日本語・日本文学

外国語・外国文学・芸術

環境・科学

シリーズから探す

実践社会調査入門

今すぐ調査を始めたい人へ



著者 玉野 和志 著

ジャンル 社会
テキスト > 社会

シリーズ 世界思想ゼミナール

出版年月日 2008/04/15

ISBN 9784790713210

判型・ページ数 4-6・236ページ

定価 本体2,000円+税

在庫 在庫あり

この本に関するお問い合わせ・感想

献本のお申込

ご注文

2,000円+税

ネット書店で購入

シェアする

f シェア 0

ツイート

G+ B!ブックマーク 0

Pocket

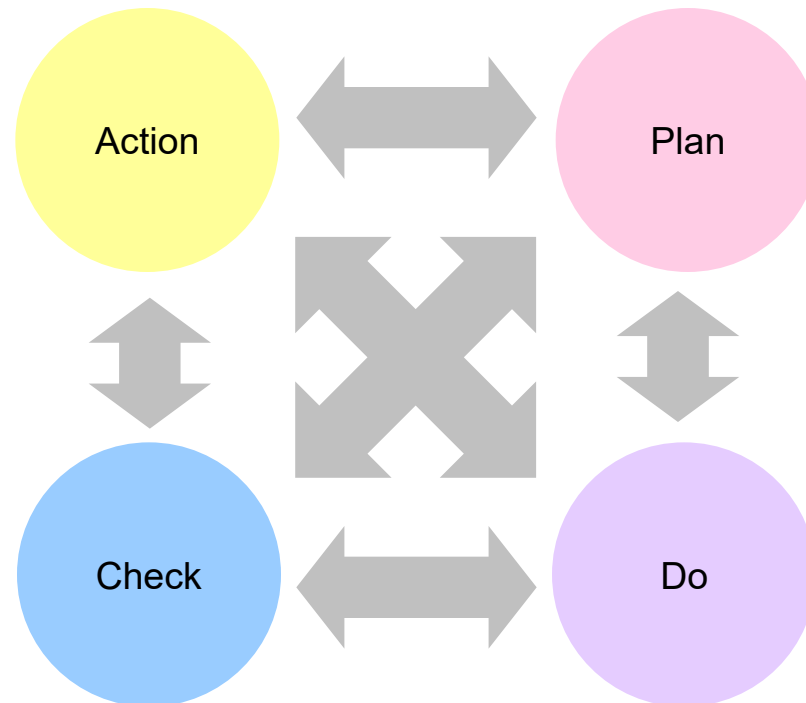
保存

解決手段の仮説

仮説を磨くとはどういうことか

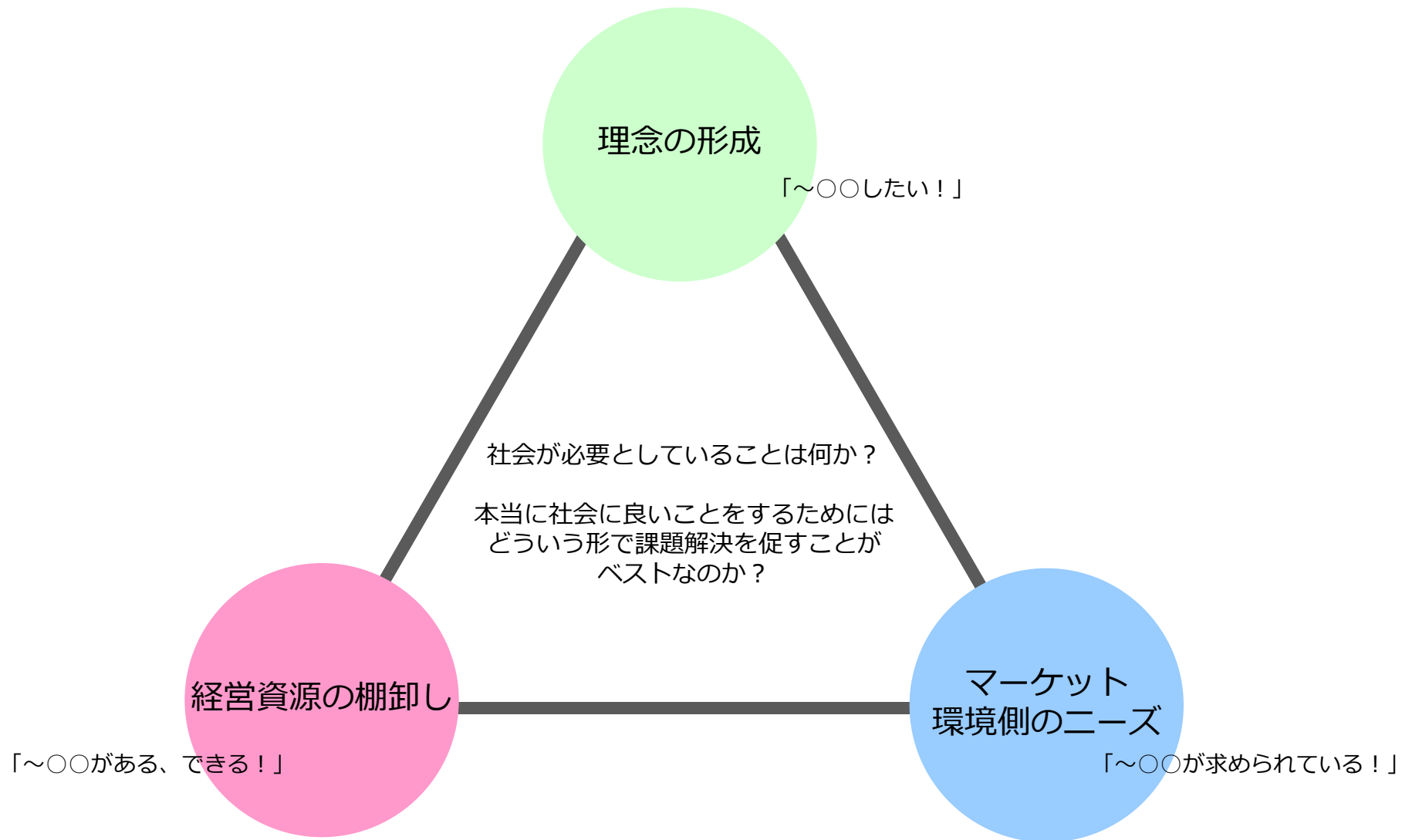
● 仮説とは

- 仮説は「真偽はともかくとして、検証するために」立てるもの。
- 手元にある限られた情報や知識をもとに仮説を立てることが前提であるため、検証しながら、柔軟に修正していくことが大切
- 逆に言うと、「裏切られた」と実感しにくい仮説は、良い仮説とは言えない(仮説を捨てられなくなる)



- ✓ 柔軟に
- ✓ 修正しながら
- ✓ 素早く
- ✓ 集められた検討素材を活かして行動することが大切

必要なアクションをどう見つけ、どう行動するか



「裏切られやすい仮説をつくる」ために

- 裏切られやすい仮説、捨てやすい仮説とは
 - はっきりしていること
 - (一定程度の複雑性は許容しつつも)シンプルであること



分解すること

どう分解するか？

課題の特定

状況

- 解決を志す社会課題の周囲にある状況や与件は何か？

課題

- どんな課題が存在するのか？量や頻度・程度は？

当事者の姿

- 誰が困っているのか？どのくらいいるのか？どんな特性があるのか？

ステークホルダー

- どんなステークホルダーがいるのか？どのくらいいて、どんなカテゴリに分けられるのか？

ありたい姿の明確化

目指す状態

- どんな状態を目指したいのか？

ゴール

- 何を活動のゴールとするのか？

解決手段の提示

プロダクト ・サービス

- 自らが担うサービスや、課題解決を支えるプロダクトは何か？

利用者・対象者

- そのプロダクトやサービスは、誰を対象にするのか？
（「課題の特定で記した対象者とのズレがあれば明確化する」）

規模

- どの程度の規模でローンチするのか、それをどう広げていくのか？

特性・メリット

- そのプロダクトやサービスの特性は何か？

差別化要因

- そのプロダクトやサービスと類似するものは何か？差別化要因は何か？

導入理由

- そのプロダクトやサービスを導入する、顧客側（対象者側）の理由は何か？

仮説をどう作るのか？

仮説をつくるために



課題の特定

- ✓ 誰が何に困っているのか？
- ✓ どんな状況で困っているのか？
- ✓ どのくらい困っているのか？（頻度・程度・量）



与件の整理

- ✓ 地域の状態は？
- ✓ 人口&トレンドは？



ありたい姿の明確化

- ✓ どんな状態を目指したいのか？
- ✓ 活動のゴールは何か？
- ✓ その時自分はどんな役割を果たしていたいか？
- ✓ ありたい姿を実現した時に、隣にいてほしい人は誰か？実現を共に喜びたい人は誰か？



ステークホルダーの特定

- ✓ その事象に関わるステークホルダーには、どんな人たちがいて、どんな属性があるのか？



解決手段の仮説づくり

- ✓ 問題の構造は何か？
- ✓ ありたい姿に至る道すじとはどのようなものか？



課題の特定～現状分析

- まずは現状分析として、課題を特定していきましょう。
- ここでは3つの問いを、考えてみます。

問い 誰が困っているのか？

- ✓ あなたが（あるいは支援先が）取り組もう/考えようとしている課題or気になっている事象は、誰が困っている課題なのでしょうか？誰がやりたいことなのでしょうか？可能な限り、説明してみてください。

問い どんな状況にあるのか？

- ✓ あなたが（あるいは支援先が）取り組もう/考えようとしている課題or気になっている事象は、どんな状況にあるのでしょうか？その状況はいつ頃から生まれているのでしょうか？いつから深刻になっているのでしょうか？
- ✓ その課題や事象は、端的に言うと、どんな内容なのでしょうか？そのことを知らない人が効いてわかるように、説明してみてください。（質的な描写）

問い その状況はどの程度 深刻/頻繁/なのか？

- ✓ あなたが（あるいは支援先が）取り組もう/考えようとしている課題or気になっている事象は、どの程度、深刻な状況にあるのでしょうか？
- ✓ あるいはどの程度、頻繁に起こることなのでしょうか？
- ✓ その事象は増加していますか？現象していますか？事象の状況に変化があるのであれば、それはどんな背景や要因の結果、生まれているのですか？（量的な描写）

どう分解するのか

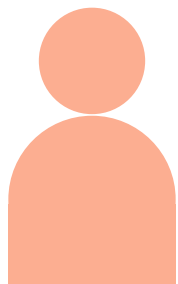
ペルソナ分析を深める

- ペルソナとは、対象者をより具体的に思い描くために設定される像のこと
- 受益者（課題を抱える対象者であるケース、製品やサービスを購入し利用する対象者であるケース、寄付者やボランティアなど協力者のターゲティングを目的とするケースなどが存在

https://www.google.co.jp/search?q=%E3%83%9A%E3%83%AB%E3%82%BD%E3%83%8A%E8%A8%AD%E5%AE%9A%E3%80%80%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%88&hl=ja&rlz=1T4GGHP_jaJP656JP656&source=Inms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwj6kqr19p3TAhUEgLwKHZCyAcoQ_AUICCgB&biw=1920&bih=930#imgrc=&spf=264

どう整理するのか (ペルソナシート：例)

基本情報



- 伊藤弘子 さん (76歳・女性)
- 住所: ○○県○○郡○○集落に在住
- 家族構成: 1人暮らし。
- 健康状態: 1年前転倒、大腿骨頸部骨折。
- 経済状況: 国民年金5万円程度、貯蓄はなく娘夫婦からの経済援助を受けていた。

対象者のストーリー

- 結婚を期に現所在地に転居。以降家族とともに生活してきたが、7年前に夫と死別。現在は一人暮らし。大阪市に56歳の娘が暮らす但日常的な交流・接触は絶えつつある。
- 転倒を機に不調を感じるように。屋外屋内ともに自立歩行は可能。屋外では杖を使うことが多い。50年前、乳がんを患い2-3年間は入退院を繰り返していた。耳は遠いが会話は可能。

現在の生活状況・困りごと

カテゴリ	内容
家事	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食事の準備は技術的には可能だが、本人の意欲と体力が追い付かず、炊事を行うことは週2回程度 ■ 洗濯はできるが、ゴミ出しが徐々に難しくなっており、近所の支援により何とか維持している状況
買い物	<ul style="list-style-type: none"> ■ 移動手段を持っておらず、町が運営する集落の循環バスが集落内の知人からの支援により生活を行っている状況
住居	<ul style="list-style-type: none"> ■ 持ち家のため、居住地確保には問題がないものの、家屋の老朽化が著しい。また居間と台所・風呂・トイレ以外にはほぼ清掃がされていない状況 ■ 家屋周囲に田畑・山林も所有しているが、維持困難。

カテゴリ	内容
身体的状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 乳がんの経験から、健康には気を使っていたものの、転倒を機に外出が難しくなり、体力の低下が著しい。 ■ 加齢性難聴のため、電話でのコミュニケーションはほぼ難。
心理的特性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 周囲に対して支援を積極的に求めることが難しく、内向的 ■ 耳が遠くなったことから、内向的な性格に拍車がかかる。 ■ 周囲の支援を拒む気持ちもあり、コミュニケーションが難
経済状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 夫との死別以降、娘からの経済援助を受けていたが、徐々に連絡が途絶えつつあり、経済的な不安も大きい。また家屋が老朽化しており、屋内の移動困難や家事負担増に拍車をかけている。

2

与件の整理

- 次に現状分析として、与件を整理していきましょう。
- ここでは次の問いを、考えてみます。

問い

課題を取り巻く環境のうち、 変えられないもの・受け入れなければならないものは何か？

✓ あなたが取り組もう/考えようとしている課題or気になっている事象に関連することで、簡単には変えられないもの、与えられた条件だと考えられるものは何でしょうか？

(例)

マクロな人口トレンド、出生（性別やエスニシティ・ナショナルリティetc）

人的な制約

地理的要件（離島・豪雪地etcといった条件や、例えば観光でいえば空港やIC、市街地からの距離など、一個人では解決しえないこと）

過去に起こった出来事、事象、事件

建物の老朽化や土地の権利関係（〇年までの期間限定の取り組みetc）など資産や金銭に関わること などなど

3

ありたい姿の明確化

- 次にありたい姿を明確化していきましょう。
- ここでは3つの問いを、考えてみます。

問い

どんな状態を目指しているのか？

- ✓ あなたが取り組もう/考えようとしている課題or気になっている事象は、
が解決したとき、地域は・社会は、どのような状態になっていますか？

問い

Goalは何か？

- ✓ 左の状態を達成する観点から考えると、あなたのプロジェクトのゴール
はどこにありそうですか？（何を？何回くらい？何年くらい？何が完成
している？何人が関わっている？）

問い

Goalに至った時、自分はどんな役割を発揮しているのか？

- ✓ プロジェクトや取り組みがゴールに至ったとき、あなたはそのプロジェクトで、
どんな役割を発揮しているイメージですか？
- ✓ その役割を担っているあなたは、どんな感情を持っていますか？

4

ステークホルダーの特定

- 解決策を考えるにあたって、その取り組みのステークホルダーとは誰か、考えてみましょう

問い ▶ ステークホルダーは誰か？

- ✓ あなたが取り組もう/考えようとしている課題or気になっている事象に関係する、ステークホルダーとは誰でしょうか？
- ✓ その人たちは、それぞれどんな特性や思考を持っているでしょうか、どんな状況があれば、協力してくれるでしょうか？

5

解決手段の仮説づくり

- 最後に、現状→ありたい姿へと、どのように橋を架けるのか、その方法を考えていきましょう。
- ここでは3つの問いを、考えてみます。

問い 解決手段はどう構造化できる？

- ✓ 課題解決に向けて、必要なステップはなんですか？
- ✓ 本質的な課題解決につなげるには、何をどう、仕組化・構造化したらよいでしょうか？

問い 最初の手がかりは何？

- ✓ 課題解決に向けて、最初に手がかりとなることは何でしょうか？
- ✓ なぜそれを、最初の手がかりだと感じているのでしょうか？
- ✓ それをすることで、どんな変化が起こりそうでしょうか？

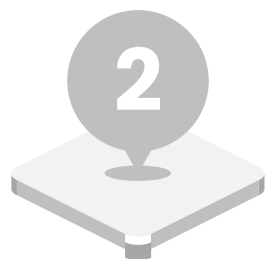
問い リソースは？強みは？

- ✓ あなたや仲間、協力者の方々は、課題解決に向けて、どのようなリソースを持っているでしょうか？
(ヒト・モノ・カネ・情報の4つの側面を意識)
- ✓ あなたや仲間、協力者の方々が持っている強みはなんですか？それはどのような場面で発揮され得るでしょうか？

本日も話すること（本セミナーのポイント）



「通すための申請書」ではなく
「プロセスを通じて育つ申請書」をつくろう



仮説を中心に組み立てよう



自らを省みる機会をつくろう

よくあるつまづきパターン

① 振り返る余裕がないまま助成期間が終わる

- ・ 採択後はPJの実施に手一杯
- ・ 取組んでみたものの、慌ただしさばかりが目立ち、チームがギスギスする

② 動き出しに手間取り、後ろが詰まる

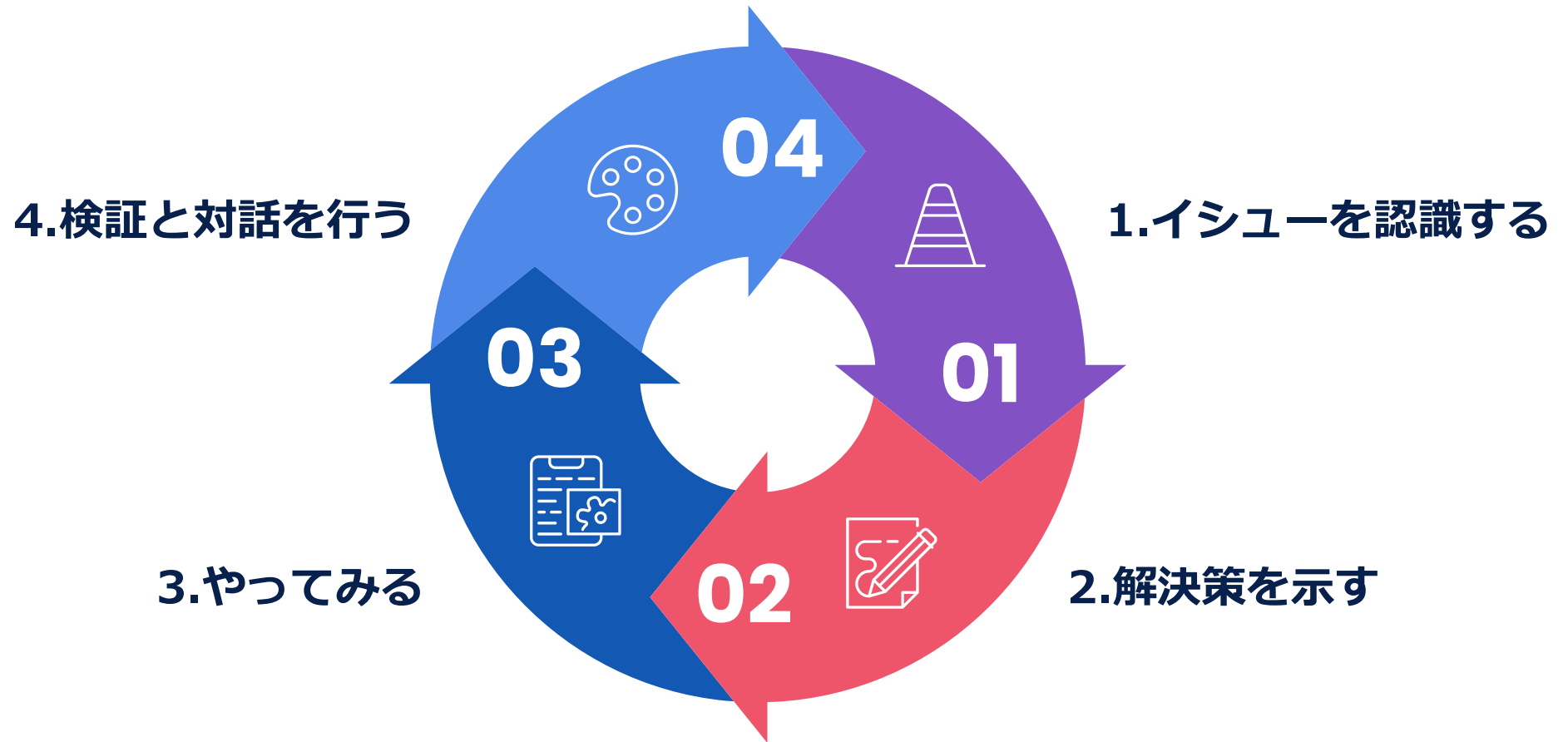
- ・ 採択されたはいいが、体制が整わない
- ・ 事前のコミュニケーションが十分でなく、あっという間に2～3ヶ月が経過してしまう

③ 報告書は出したけど、次につながらない

- ・ 事業は頑張ったが、振り返りが十分でない
- ・ 報告書はなんとか提出したが、「やったこと」の羅列と「会計報告」で終わる
- ・ 結果、毎回の助成申請は一発勝負、自主財源や会員獲得の機会創出にもつながらない
- ・ 協力した地域の方々は、結果がわからず徒労感を感じる

成長に向けてサイクルを回す

- 1. 2で力尽きない
- 3.で終わらない



より良い成長に向けて

1. アセスメントを正確に行うこと

- ✓ 対象の抱えている課題やねがいは何か
- ✓ 自分たちの強み・得意は何か
- ✓ 自分たちが出来ないことは何か

2. 仮説を持つこと

- ✓ 起こしたい変化と取り組むアクションが繋がっているか

3. 結果を振り返り、対話すること

- ✓ Doで力尽きない
- ✓ 振り返りや対話のプロセスまで、申請段階で組み込む

何をどう実践するか？

やったこと

~~||~~

学んだこと

何をどう実践するか？

やったこと



学んだこと

何をどう実践するか？

やったこと



振り返りと対話

学んだこと

考えるべきポイント

- 大切なことは、考えた仮説をアップデートすること

1 仮説はどこまで合致していたか？

- 想定していた因果関係は成立していたか？
- 効果が出たのは、どの条件が揃ったときか？
- 成果が出なかった場合、仮説が違ったのか？ 実行条件が足りなかったのか？

2 想定外に起きたことは何か？

- 計画していなかった反応は？ ● 想定より難しかった点は？
- 予想外にうまくいった点は？ ● 現場から出てきた違和感・声は？

3 次は何を変えるか？

- 対象や地域は絞るのか？ 広げるのか？
- 活動量を増やすのか？ 質を変えるのか？
- 次に協力すべき相手は誰か？
- 次回はどうファンドレイズするのか？

考えるべきポイント

- 大切なことは、考えた仮説をアップデートすること

1 仮説はどこまで合致していたか？

- 想定していた因果関係は成立していたか？
- 効果が出たのは、どの条件が揃ったときか？
- 成果が出なかった場合、仮説が違ったのか？ 実行条件が足りなかったのか？

合致していたことと、前提条件を活かす →

再現可能性
の確認

2 想定外に起きたことは何か？

- 計画していなかった反応は？ ● 想定より難しかった点は？
- 予想外にうまくいった点は？ ● 現場から出てきた違和感・声は？

想定外はノイズでなく大切な知見 →

新たな仮説の
種の発見

3 次は何を変えるか？

- 対象や地域は絞るのか？ 広げるのか？
- 活動量を増やすのか？ 質を変えるのか？
- 次に協力すべき相手は誰か？
- 次回はどうファンドレイズするのか？

知見は次に活かされてこそ意味を持つ →

意思決定
への接続

そのためにできる、小さな習慣

01

PJの途中で、成果を見返す

- ✓ 申請書は思考のかたまりであり知見の宝庫
- ✓ 1回きりで終わりにしない

02

話し合いの場を持ち、記録に残す

- ✓ メンバー間での話し合いの場を持つ
- ✓ イベントやWS等を実施する場合は、振り返り会の日付も先に決める
- ✓ 話し合いの結果は必ずログを取り共有、これが報告や次の意思決定に向けた財産になる

03

迷ったこと、途中で変えたことも記す

- ✓ 予定通りにできることばかりではない
- ✓ 迷ったこと、変えたことも大切な思考の過程。そのことも記録に残す

04

「何を学んだか」にフォーカスして議論をする

- ✓ DOとチェックで終わらない
- ✓ 何を学んだのかまで一段深めて、話し合いや記録を残すことが大切